

第1回

ちいき みりよく 地域の魅力再発見！

れきし たど
歴史のかけらを辿るフィールドワーク



ねらい

じもと みりよく さいはっけん とお
地元の魅力を再発見するフィールドワーク！いつも通るあの
ばしょ ちが けしき ふね
場所が明日から違った景色に見えるかもしれません。船の出入
り口として栄え、かつて江戸湊と呼ばれていた、隅田川河口域
すみだがわここういき
の魅力を迫ります。



本日の先生

おおつか すずき なかがみ やなぎはら
大塚たくみ、鈴木たける、中上しゅんすけ、柳原あかね
(京都芸術大学大学院研究員グループ エドミナト)

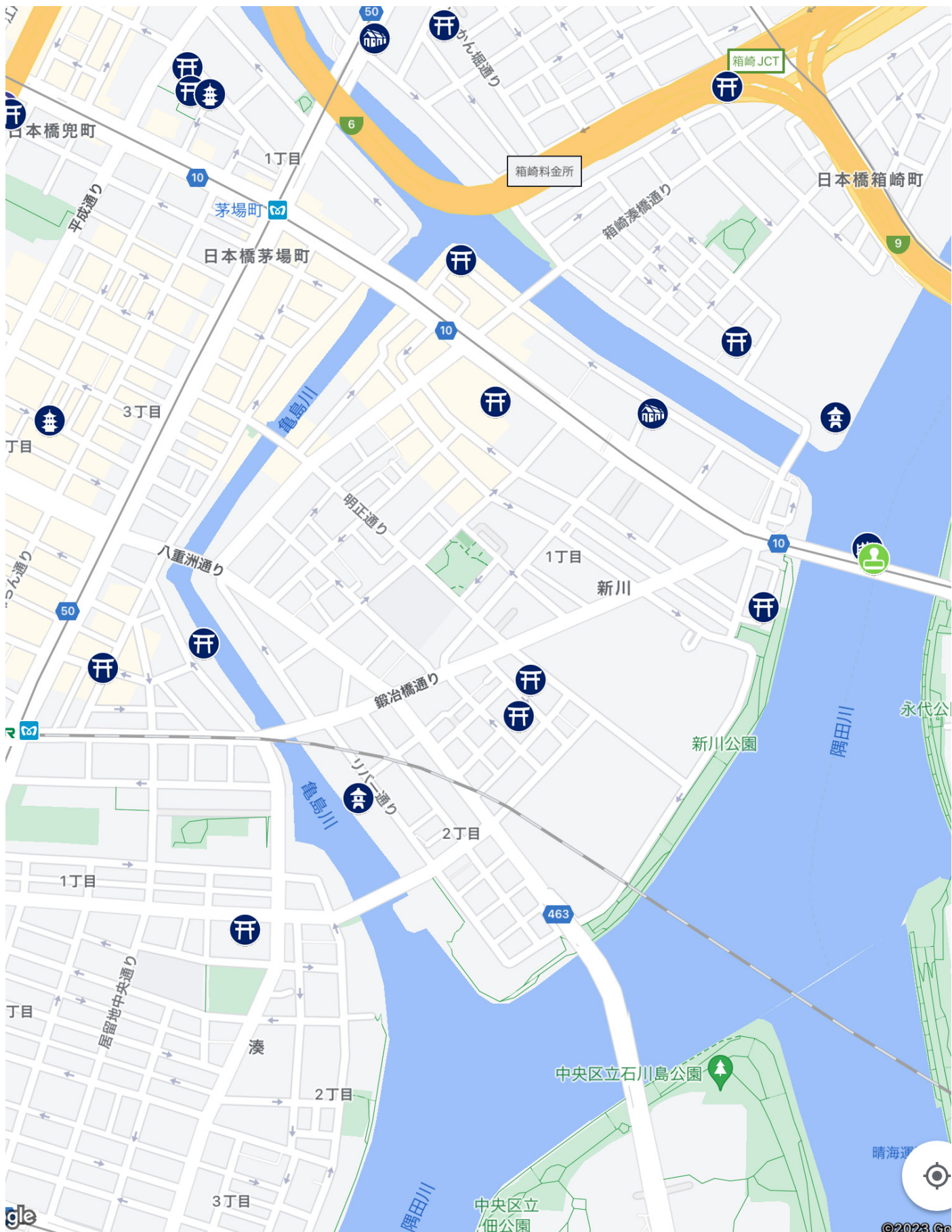


おねがい

しゃしん と こえ だいじょうぶ
写真を撮ったり、自由に声を出して大丈夫です。
先生のお話しには耳をかたむけてみましょう。クイズもあるよ！

中央区家庭教育学習会
開催団体：エドミナト
日時：2023年10月29日(日) 10:00～11:30
場所：新川公園(隅田川テラス)





画像出典：google map

えどみなと げんだいばん
江戸湊 MAP [現代版]

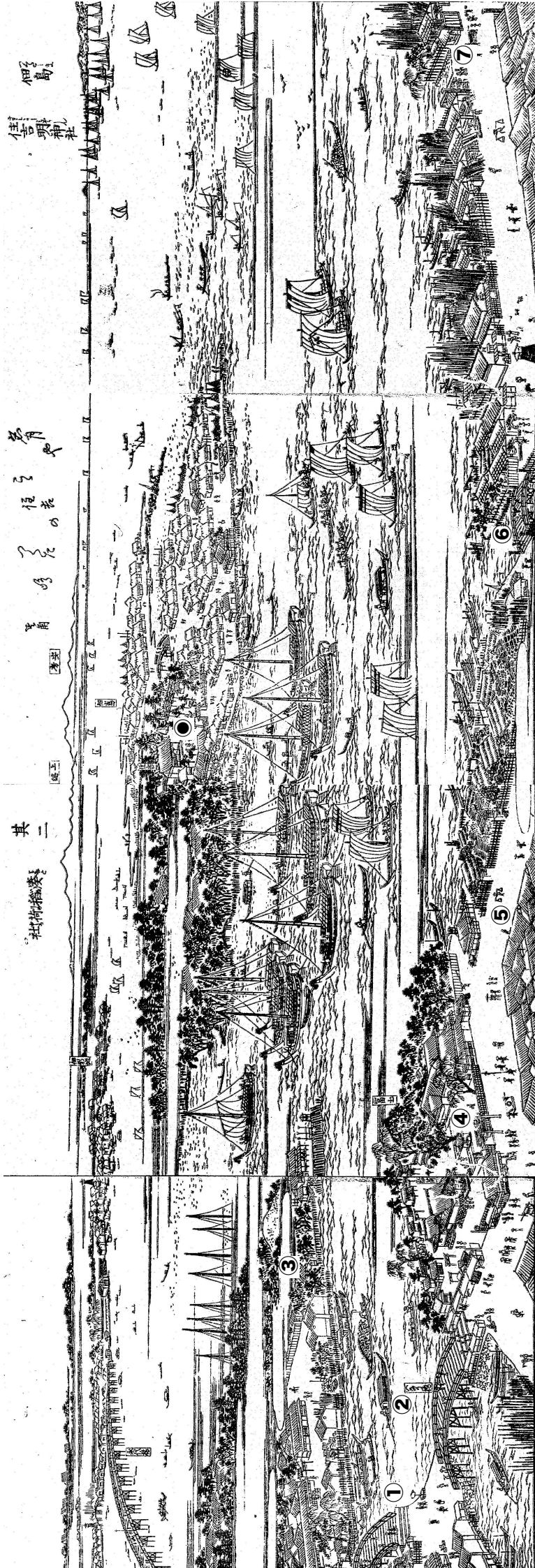
現・東京都中央区新川（霊岸島）、佃、湊（鉄砲洲）一帯



画像出典：大江戸今昔めぐり

えどみなと えどじだいまっきばん
江戸湊 MAP [江戸時代末期版]

現・東京都中央区新川（霊岸島）、佃、湊（鉄砲洲）一帯



其二 湊荷橋

伊弉明神社

伊弉明神社

① 亀島川と高橋

▲ 小名木川
万年橋

② 八町堀(桜川)
と稲荷橋

③ 越前福井藩邸

④ 湊稲荷社
(現鉄砲洲神社)
境内に富士山がある

⑤ 人足寄場
渡し口

湊町河岸
● 住吉神社

⑥ 鉄砲洲橋

船松町
河岸

⑦ 伊島上り場

画像出典：中央区沿革図集 月島篇

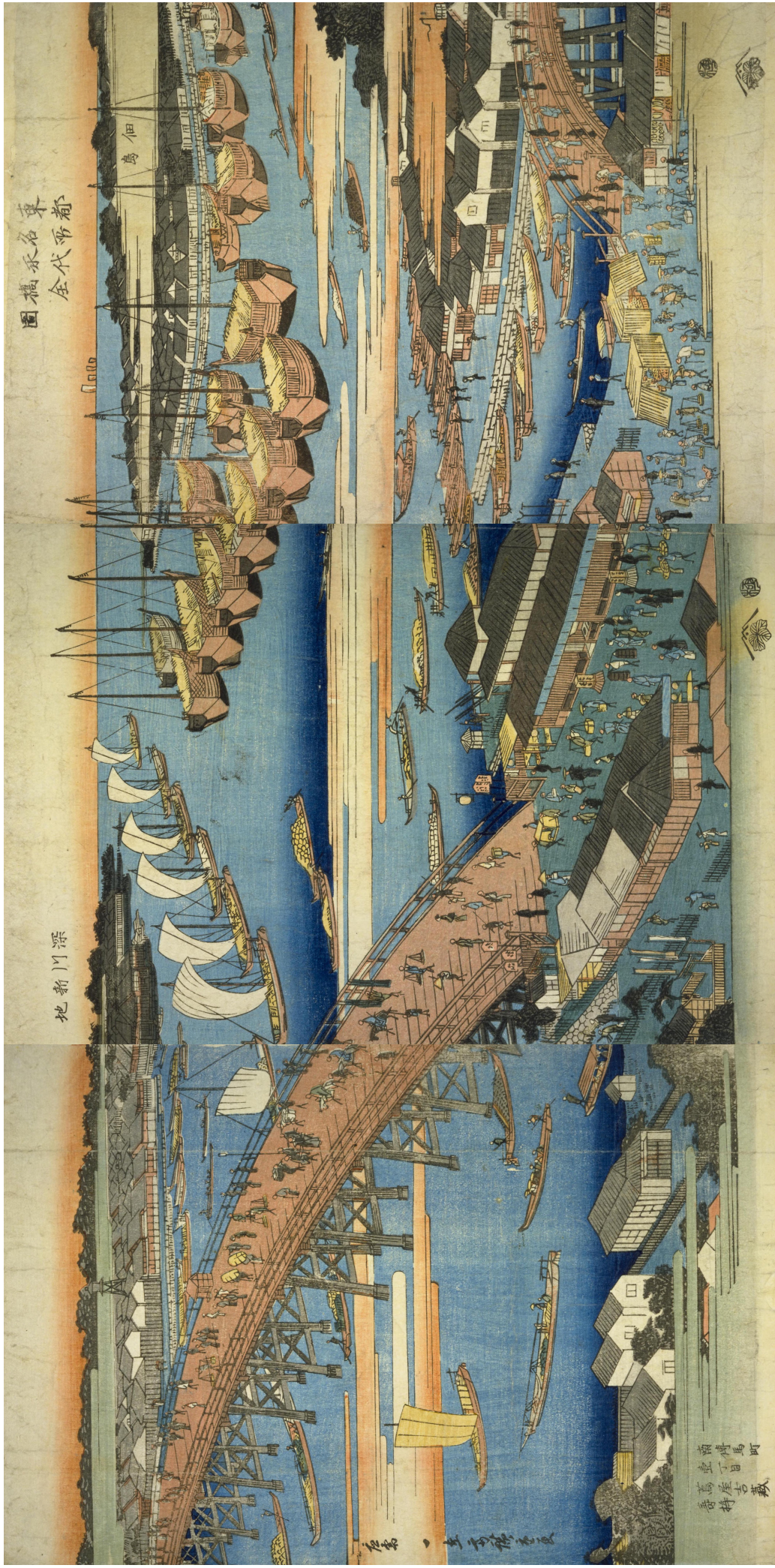
『江戸名所図会』(1838年頃成立)「伊弉明神社」「其二、湊稲荷社」江戸湊一帯。現在の中央区役所のあたりから見渡す視点で描かれている。



画像出典：中央区沿革図集 日本橋篇

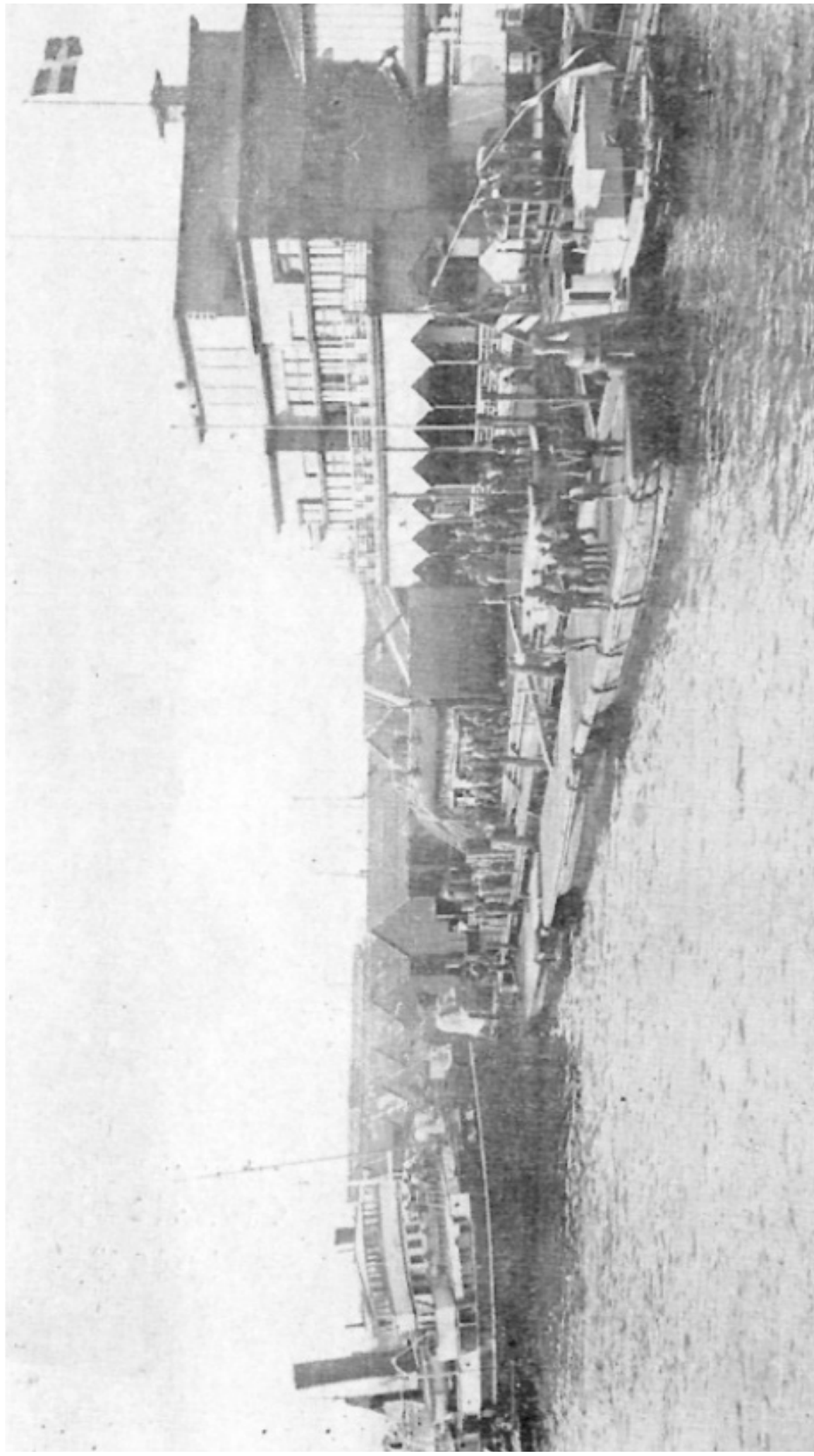
しょうわ ていとぎゅうこうきせんうんてんけいとうず ぶぶんぼつすい
昭和3年（1928年）帝都急行汽船運転系統図【部分抜粋】

関東大震災から5年後。地下鉄（左下）が通る一方で、江戸以来の水上路も健在だった。



画像出典：国立国会図書館

とうとめいしよ えいたいばしせんず
東都名所 永代橋全図
 江戸時代末期に描かれた風景画。舟運が盛んな様子や水辺のにぎわいが伝わってくる。



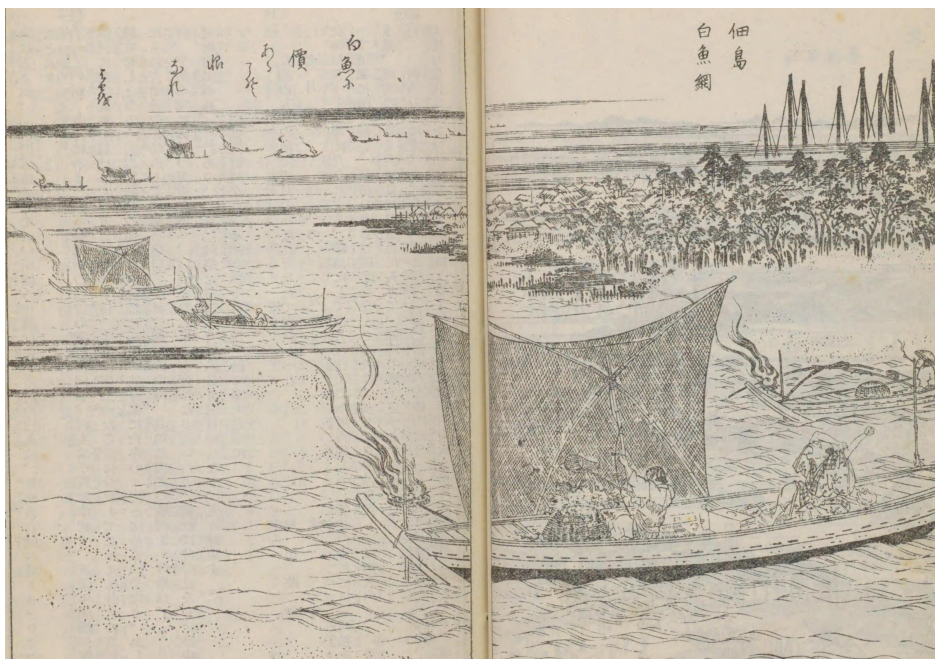
画像出典：東海汽船株式会社 HP

霊岸島棧橋 (1920年頃撮影 推定)

舟運は大正時代も健在だった。霊岸島の棧橋は関東大震災で甚大な被害を受けたが、その後再建された。



画像出典：中央区沿革図集 月島篇



画像出典：国立国会図書館



画像出典：中央区観光協会

かつしかほくさい ふがくさんじゅうろっけい ふようつくだじま
 葛飾北斎 『富嶽三十六景』 「武陽佃島」 (上)
 はせがわせつたん しらうおあみ
 長谷川雪旦 『江戸名所図会』 「佃島、白魚網」 (左下)
 うたがわひろしげ
 歌川広重 『名所江戸百景』 「第四景 永代橋佃しま」 (右下)

いずれも盛んだった白魚漁の様子が描かれている。



画像出典：中央区観光協会



画像出典：Jr. 中央区歴史・文化ずかん

つきしま 月島地区の水上生活の様子（上2点）

水上生活者が暮らしていた船の内部イラスト（下）



ちゅうおうくかていきょういっくがくしゅうかい
中央区家庭教育学習会クイズとその答え集

だい もん
第1問

えどじだい ちず げんだい ちず
江戸時代の地図にあって、現代の地図にないものがあります。

さてそれは何でしょう？ヒントは「水色」です。

せいかい
正解 「川」

かつてこの地域にはたくさんの「川」がありました。この辺りの住所は

「新川」ですよね。資料2ページ目の地図には「新川」という川があります。

昔、このあたりには川がありました。また「越前堀」というお堀もあつたん

ですよ。震災や戦災の瓦礫処理のために埋め立てられてしまいました。



江戸 MAP [江戸時代地図]
現・東京都中央区新川（豊洲島、佃、湊（鉄砲洲）一帯

だいもん
第2問

ふしぎな^{かたち}形の^{たてもの}こちらの建物、何だかわかりますか？

せいかい
正解 「川の水の高さを測る観測所」

にっぽんぜんこく^{つか}で^{うみ}使^{かわ}う海や^{こう}川の^{にっぽん}高さの「^{へいきん}日本の^{さだめ}平均」が^{とうじ}定められ、^{えら}当時^{こゝ}ここが選
ばれたそうです。かつて^{しんかわ}新川^{エリア}は「^{れいがんじま}霊岸島」と^よ呼ばれていて、そこから

^{れいがんじま}「^{すい}霊岸島^{すい}水位^{かんそくしよ}観測所」という^{なまえ}名前がつけられたんですね。



ちゅうおうく
中央区ホームページより

ちゅうおうく
中央区ホームページ「^{れいがんじま}霊岸島^{すい}水位^{かんそくしよ}観測所」^{じょうほう}情報



だいもん
第3問

はし
橋がなかった時代、人々はどうやって向こう岸に渡っていたので

しょうか？

せいかい
正解 「無料の船で渡っていた」

かつてこの地域には舟は欠かせない存在でした。最初のパートで説明させて
いただいた通り、この地域はかつて「江戸湊」と呼ばれ、日本中から江戸
に荷物が集まる必要な場所で荷物を船で運んでいたんですね。中でも、佃の
渡しは、370年以上前の1645年頃から始まったとされています。数ある渡し
船の中でも最後まで残った佃の渡しでしたが、1964年佃大橋が完成したこ
とを受けて300年以上に及ぶ歴史に幕を閉じました。



だいもん
第4問

とくがわいえやす だいこうぶつ
徳川家康が好物だった魚が、この地域で採れていたんです。

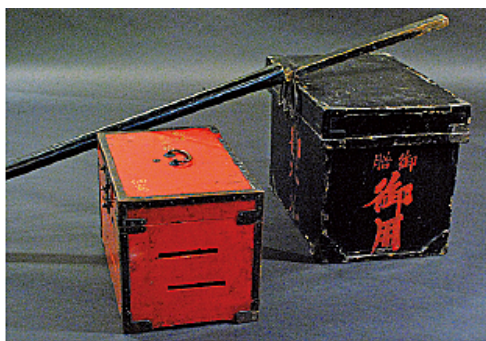
さて、その魚とは一体なんでしょう？

せいかい しらうお
正解 「白魚」

えどじだい しょうわ ねんごろ いま ねんまえ じつ ちいき
江戸時代から昭和30年頃（今からおおよそ70年前）まで、実はこの地域が

えど ぎよぎょう ちゅうしん いえやす しらうお こうぶつ
江戸の漁業の中心でした。家康は白魚がとても好物だったようなので、

いえやす しらうお けんじょう も せんよう はこ
家康にとれた白魚を献上（持っていく）するための専用の箱まであったそう
です。



ちゅうおうく はこ じゅうよう ぶんかざい ほそん
中央区にその箱が重要な文化財として保存されています。

ちゅうおうく しらうおけんじょうぼこ じょうほう
中央区ホームページ「白魚献上箱」情報



だいもん
第5問

すみだかわ ひとひと おこな いま
隅田川で人々が行っていたあることがありました（今はできま
せん）それは何でしょう？

せいがい すいえい れんしゅう ふね せいかつ みずべ がっこう かよ
正解 水泳の練習・船の上で生活・水辺の学校に通う

いま そうぞう すいえい れんしゅう ふね うえ せいかつ かわ
今では想像ができませんが、水泳の練習も、船の上での生活も、川の
うえ がっこう
上に学校があったという話も、全てこの地域の人々と川、水辺の歴史です。

めいじじだい かいわい おおかわばたすいれんじょう すいえい れんしゅう
明治時代までは、この界隈に「大川端水練場」という水泳の練習場があ
って、夏休みの時期には賑わったそうです。陸の上に家を持たずに船の上で
せいかつ すいじょうせいかつ ねん いま
生活していた「水上生活者」がいました。また1930年（今から90
ねんいじょうまえ とうきょうすいじょうじんじょうしょうがっこう つきしまこうしゃ ねと
年以上前）には、「東京水上尋常小学校（月島校舎）」ができて、寝泊ま
りできる学校で子供たちの日常の暮らしを支えていました。



ちゅうおうくぶんか れきし
Jr. 中央区文化・歴史ずかんより

